

1. こども園の運営

(1)定員 150名

- 平成27年3月31日 園児数 147名（保育園部138名、幼稚園部9名）
[0歳児15名（内福知山1名）・1歳児18名・2歳児22名・3歳児31名（内福知山1名）
4歳児保育園部24名、幼稚園部5名・5歳児保育園部28名、幼稚園部4名]

(2)職員数

- 平成27年3月31日現在 職員数 43名
[園長1名、副園長1名、統括主任1名、主任3名、教諭・保育士23名、保育士1名、管理栄養士（主任）1名、調理師3名、看護師1名、補助員1名・バス運転手2名、アフター5名]

2. 本年度保育・教育計画の重点事項について

- 新たな認定こども園のスタートとして職員一人一人が園の目標、理念をしっかりと把握し、子どもの健やかな成長を見守った。
- 新しい環境において、職員間で保育内容を一つ一つ検討しながら日々の保育を行ったり、行事を進めていった。
- 認定こども園となり、4、5歳児においては短時間部、長時間部と保育時間が異なるため、保育内容、保育時間を見直し、14時までの保育時間の充実を図った。
- 幼稚園教育についても市教育委員会や外部講師の指導を受けたり、また幼稚園の公開保育等にも積極的に参加し、研鑽を積みながら教育を行った。
- 2小学校とネットワーク会議により情報交換を行ったり、徒歩登園、体験入学等就学に向けて連携を充実した。
- 経費面においては園舎の追加工事等に多大な経費を必要とした。園児数も定員を割る状態のなかで運営費の伸びも少なく、経費の節減に努めた。
- 新しい環境において園児は元より保護者に不安を与えることのないよう保育の連絡や、園の様子等を機会を持って公開するなど、保護者との連携も充実するように努めた。
- 本園の保育の特色でもある自然環境教育においては、日々の散歩やムッレ、クニユータナ教室において自然と触れ合い、興味や関心を深めた。またムッレ活動の拠点ともなるべき岩倉里山が8月の豪雨において被害に遭ったが、里山会の皆様のご協力により整備して頂き、計画どおりムッレファイナルを保護者と共に開催することが出来た。
- 両地区の和光会の会員さんにご協力を頂いて竹馬竹ポックリ作りを行なったり、500人委員会の方々によりシャボン玉を楽しんだり、県警による音楽会を開催する等、地域との新しい連携も行った。
- 給食については、季節感や地産地消、栄養バランスを十分に配慮したメニューを作成し、安全・安心な給食を提供した。アレルギー食についても管理栄養士、看護師の指導の下に家庭との連携を密にとり、除去食を行なった。また職員全員が園児のアレルギーの把握をすることを心がけた。
- おたふく風邪やインフルエンザ、アタマジラミ等、感染による疾病が流行したが、看護師を中心に関係小学校や保護者との連携を密に取り、感染の拡大の防止に努めた。
- 特別支援の必要な園児に対しては専門機関、保護者との連携を大切にし、的確な援助を心がけた。
- 地域に向けては定期的に園だよりを各戸配布し、園の様子を地域の方々に伝えていった。

3. 職員研修

- 園の教育・保育課程に沿った保育内容を常に心がけ、日々職員間で保育内容を検討、協議し、保育の充実に努めた。
- 各種研修会には積極的に参加し、資質向上に努めた。
- 研修内容はお互いに伝えあい、知識の共有を意識した。
- 園内研修を計画的に実施した。

4. 家庭との連携

- 保育の質を常に意識し、保育者にとっての保育ではなく、園児にとって必要な保育を常に心がけ、保護者との連携を大切に日々の保育を行った。
- home pageの内容を週末に更新し、1週間の園の様子を保護者に伝えていった。
- オープン参観やプール参観、各種行事への呼びかけ等、保護者に普段の活動を気軽に参観できる機会を計画した。
- 乳幼児に関しては家庭的な雰囲気の中での保育をめざし、生活リズム等家庭と連携を取りながら進めた。また5歳児においては小学校就学ということを常に意識し、スムーズに小学校生活が送れるように家庭との連携を密に取りながら、持ち物の準備や自分の身の回りの事は自分でする生活習慣を身に付ける大切さを伝えた。
- 園だより、幼稚園部だより、保育園部だより、給食室だより、保健室だより等各種たよりを月に1回発行して、園の様子を具体的に伝える機会を設けた。

5. 子育て支援室の開催

- 認定こども園に課せられた、子育て家庭への支援ということを常に意識し、わくわく広場を週2回開催して未入園児の親子が楽しく過ごせる空間を提供したり、また園行事にも参加できる機会を作ったり、未入園児だけの行事等も計画し実行した。
- 子育てについての悩みや相談を気軽に出来る空間を意識したり、担当者も話しやすい雰囲気づくりに努めた。

6. アフタースクールの運営

- 就労等により下校後家庭に保護者のいない児童の安全を守り、児童の健全育成を目指して実施していることを意識し、専門的な指導員の下で、規則正しい生活が過ごせる環境づくりを行った。
- 保護者や小学校との連携を密に取り、スムーズな受け入れを行った。
- 日々の様子を日誌に記載し、職員間の意識の共有を行なったり、また定期的に小学校長に提出することで児童の放課後の様子を伝える等、小学校との連携や意識の共有に努めた。